



AT-TQ3600 リリースノート

この度は、AT-TQ3600 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 3.1.3

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **3.1.2** から **3.1.3** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 WDS 構築後、WDS を構築しているチャンネルを変更した際、WDS が構築されなくなる場合がありますが、これを修正しました。
- 2.2 特定の無線クライアントが、接続後すぐに切断されてしまうことがありますが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **3.1.3** には、以下の制限事項があります。

3.1 イーサネット設定

 **参照** 「リファレンスマニュアル」 / 「詳細設定」 / 「イーサネット設定」

「IP アドレスの取得」が「DHCP」の場合、機器起動後 IP を取得する前に、機器が有効としているアプリケーションパケット（NTP、Syslog、DNS、SNMP パケットなど）が、スタティック IP アドレス（DHCP 設定時アクセス可能な IP アドレス）を送信元アドレスとして、送信されることがあります。

IP アドレス取得後には、取得した IP アドレスを送信元として送信されます。

3.2 無線コントローラー

 **参照** 「AT-UWC リファレンスマニュアル」

無線コントローラー管理下の、Sentry モード（監視モード）に設定されている本製品が起動するとき、5GHz 帯（2-802.11a/n）で 2.4GHz 帯（1-802.11b/g/n）のチャンネル 1 のアクセスポイントや無線クライアントを検出してしまうことがあります（WLAN > IntrusionDetection > Rogue/RF Scan 画面や Detected Clients 画面に表示されます）。検出の結果は 24 時間後に削除されますが、ただちに削除したい場合は手動で削除してください。

3.3 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [\[VAP\]](#)

- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。
- 無線クライアントがアクセスポイントから切断して 3 秒以内に再接続すると、RADIUS アカウンティングパケットに設定されるセッション ID が更新されません。
- 「VAP」画面の無線 2 (5GHz 帯) の「セキュリティ」の変更は、次のいずれかの手順で行ってください。この手順で行わないと、ビーコンが停止することがあります。
 - (1) セキュリティ設定を変更します。「無線 LAN 設定」画面の「無線 2」を「オフ」にして「適用」ボタンをクリックします。再度「無線 2」を「オン」にして「適用」ボタンをクリックします。
 - (2) 「無線 LAN 設定」画面の「無線 2」を「オフ」にして「適用」ボタンをクリックします。セキュリティ設定を変更します。再度「無線 2」を「オン」にして「適用」ボタンをクリックします。
 - (3) セキュリティ設定を変更したらアクセスポイントを再起動します。
- ひとつまたは複数の VAP が有効に設定されている場合に、そのうちのひとつでも「バンドステアリング」を有効にするときは、有効に設定されているすべての VAP の「SSID のブロードキャスト」を有効にしてください。

3.4 WDS 多段接続

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [\[WDS\]](#)

多段で WDS 構成をする場合は、3 台程度での構成を推奨します。4 台以上の多段接続は未サポートです。

AP -- (WDS) -- AP -- (WDS) -- AP

注意：アクセスポイント (AP) を何段も経由するとスループットが低下するため、導入の際は実環境にて事前調査を行うことを推奨します。

3.5 WDS

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [\[WDS\]](#)

AT-UWC 管理下で WDS のサテライト AP に設定する WDS グループパスワードは、バックアップファイルとしてダウンロードを行ったコンフィグファイルに保存されません。設定情報を筐体 A からダウンロードして筐体 B にリストアする場合は、WDS のサテライト AP に設定する WDS グループパスワードを再設定してください。

3.6 MAC フィルタリング

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [\[MAC フィルタリング\]](#)

MAC フィルタリング機能の「リスト上の全てのステーションをブロックする」フィルターと WDS の併用はできません。併用すると WDS のリンクが切断されてしまいます。WDS と MAC フィルタリングを併用する場合は、「リスト上のステーションのみを許可する」を選択し、無線クライアントのリストに対向アクセスポイントの MAC アドレスを追加してください。

3.7 Managed AP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「Managed AP」](#)

「Managed AP」画面の「パスフレーズ」を一度設定すると、設定したパスフレーズを削除することができません。パスフレーズの変更は可能です。

3.8 クラスタ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスタ」](#) / [「アクセスポイント」](#)

- クラスタ機能において、ひとつのクラスタに所属可能なアクセスポイント数を超える台数（17 台以上）を追加すると、画面上では 17 台目以降の情報は表示されませんが、追加したアクセスポイントでクラスタの設定が共有されたり、誤動作を起こしたりすることがあります。
- クラスタ機能は、異機種間、異なるファームウェアバージョン間での使用や、WDS 機能との併用はできません。

3.9 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

起動の際に、VAP インターフェースの送信カウンターがカウントアップしますが、表示のみで実際にはパケットを送信していません。

3.10 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

SNMP の設定において、「SNMP SET リクエストの許可」は未サポートです。

4 マニュアルの補足

最新リファレンスマニュアルの補足事項です。

4.1 保守管理 / アップグレード

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「保守管理」](#) / [「アップグレード」](#)

V.2.0.0 以降のファームウェアでは、V.2.0.0 以降の任意のファームウェアバージョンの間でアップグレードとダウングレードが可能です。ただし、設定ファイルに下位互換性はありませんので、アップグレード後に前バージョンに戻す可能性がある場合は、アップグレードを行う前に、「保守管理」 / 「設定」画面で設定ファイルをバックアップしてください。

5 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル（613-001965 Rev.D）は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>